

節電と猛暑の間で

夏への備え 県内では

「これを機会にアンペアダウンをやってみたらよいのではないか」

塩尻市広吉田の会社員、平島安人さん(54)は3月30日、事務局長を務める市民団体「信州気候フォーラム」のブログに、そう書き込んだ。

アンペアダウンとは、家庭で同時に使える電気の量を下げること。契約アンペア数を小さくし、ブレーカーを付け替える。

平島さんは東京電力福島第1原発事故が起こる前から、脱原発がテーマのドキュメンタリー映画「ミツバチの羽音と地球の回転」の自主上映会を企画。3月25日には、上映会実行委員会メンバーと共に、中部電力浜岡原発(静岡県)の停止を求める提案書を松本や塩尻市の市長らに提出した。活動の延長として、自分ができる節電策であるアンペアダウンの実践を掲げた。

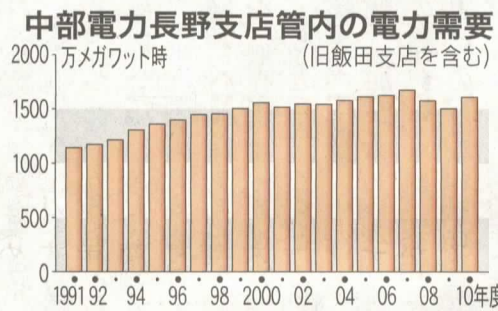
中部電力によると最近の標準的な家庭は30㍉で、50㍉60㍉の家庭も増えているとい

う。平島さんは自宅の電力を40㍉から20㍉30㍉程度に落とすつもりだ。同社は「アンペアを下げて、消費量を減らさないと節電にならない」と指摘するが、一定の歯止めにはなりそう。

アンペアダウンの試み



ピーク時の電力不足を回避しようと、家庭でのアンペアダウンも広がる。平島さんも近くアンペアを下げるつもりだ＝塩尻市



生活の知恵を見直す機会になる」と考えている。

事業所でも節電の取り組みが増えている。松本市岡田松岡の設計事務所「英設計」は、23日から始業を1時間半早め、午前7時からにする「サマータイム」を導入。「朝早く始めれば、夜遅くまで働かず節電になる」とし、1カ月

はなりそう。

自宅にエアコンを付けていない長野市上松の主婦、武田厚子さん(35)は5年ほど前から15㍉で生活している。夫と小学3年生の長女(9)の3人暮らしで、入居当時は30㍉だったが、しばらくしてアンペアダウンした。電化製品を使わないときはプラグをコンセントから抜く小まめな節電で、「ブレーカーが切れることはない」と話す。

夏は部屋に熱がこもらないよう玄関に網戸を付け、反対側の窓から風を通すようにした。寝苦しい夜には氷枕も使う。「今夏の節電は、さらに

電気依存の暮らし見直す

間試行する。

節電のため既に70台の扇風機を導入したミネベア(北佐久郡御代田町)もサマータイムを検討中。「節電の意識付けにもなる」という。

私たちの暮らしは電気への依存を強めている。中部電力長野支店(長野市)によると、1991年度約1143万㍉の時だった同支店管内(旧飯田支店分を含む)の電力需要は、昨年度約1610万㍉の時と1.4倍になっているグラフ。

そんな傾向に疑問を感じる人は多い。「電気を使わない冷蔵庫」など「非電化製品」の発明家で、日大工学部客員教授の藤村靖之さん(66)栃木県那須町は、「今ほど電気を使わなくても十分生活できる」と考える。

「原発停止で不足した電力を自然エネルギーで補うだけでは、量的に賸りきれないし、根本が何も変わらない」。むしろ大切なのは「エネルギーの大量消費が本当に豊かで幸せなのかを見直すこと」だと訴える。電気がなくても「幸せ度」は上げられる。発想の転換がこの夏、起きるだろうか。

(河原千春)

本紙連載「笑顔のままで医療編」を出版

「認知症の正体」に改題

本紙暮らし面で昨年1月から今年3月まで連載した「笑顔のままで一認知症・ラスト、カラー写真を多数収録し、デジタル面からも理解しやすい内容になっ